

概観

【内政・社会】

- ・6日、ルセ市の地方テレビ局の女性ジャーナリストの殺人事件が発生し、背後にEU資金の不正疑惑との関係があるのではないかと国際社会からの非難が高まった。9日、ドイツにおいて容疑者が逮捕され、10日、ブルガリア政府は、事件が衝動的なものだったと発表した。
- ・15日、社会党による3度目の政府不信任決議案が提出され、24日、否決された。
- ・16日、障害児を持つ母親達に対する不適切な発言を契機として、シメオノフ副首相に対する辞任要求が高まった。
- ・29日、在外ブルガリア市民庁のハラランピエフ同庁長官他計15名が贈賄・文書偽造・職権乱用の罪で逮捕された。

【外 政】

- ・5日、ボリソフ首相はウクライナを訪問し、ポロシェンコ大統領と会談した。両者は、ブルガリア系住民が多いボルグラードのG・Sラコフスキ高校創立160周年記念式典に出席した。
- ・17-19日、ラデフ大統領は訪英し、エリザベス2世女王陛下に謁見した。
- ・20-23日、ボリソフ首相はアラブ首長国連邦及びエジプトを訪問した。

【経 済】

- ・6日、財務省は秋の経済予測において、2018年の経済成長予測を3.6%に下方修正した。
- ・9日付報道によれば、ブルガリア国鉄(BDZ)が実施する42両の電車車両の購入及びメンテナンスの入札に対し、中国中車(CRRC)が関心を示している。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

内政

◆社会党による政府不信任決議案提出

- ▶15日、社会党(BSP)は、保健医療分野における政策の失敗を理由に、GERB及び統一愛国者による連立政権に対する3度目の不信任決議案を提出した。
- ▶BSPは不信任決議案の理由について、保健医療分野の悲惨な現状や政府による対応の不備を挙げ、ニノヴァBSP党首は、今回の不信任決議案は(1)保健医療の現状の悲惨さ、(2)政府は同分野における問題を解決する意思がないこと、

(3) BSPはこれら全ての代替案を提案出来ることを示す目的があると説明した。

- ▶24日、国民議会は、BSP提出による政府不信任決議案に係る投票を行い、賛成99(BSP、権利と自由のための運動(MRF))、反対133(与党GERB、連立与党・統一愛国者(UP)、ヴォリヤ)により、これを否決した。

◆シメオノフ副首相に対する辞任要求

- ▶16日、障害者法案に係る検討を行う三者協力のための国家諮問委員会(以下、諮問委員会)会

合の後、委員長を務めるシメオノフ副首相（当時）は、自身が所有するケーブルテレビ局CKATにおいて、「この法案は、そもそも、自分の子供たちを利用する一部の騒がしい母親たちが、病気であるはずの子供たちを、母性のかけらもなく、暑い日も雨の日も振り回しながら社会を扇動し、利益を得ようと試みたところから始まったものである」との発言を行い、同発言が拡散した結果、広く批判の対象となった。

▶19日、抗議活動を行う障害児を持つ母親たちはニノヴァBSP党首に伴われ、国民議会においてシメオノフ副首相の辞任を要求し、要求が聞き入れられない場合には更なるデモ活動を実行する旨等発言。BSPも同様に、シメオノフ副首相の辞任を要求。

▶ボリスフ首相は、政府としてシメオノフ副首相の発言について深く謝罪すると述べ、シメオノフ副首相に対しても謝罪を求めるとともに、その発言の真意を説明するよう求めた。

▶23日、UPの連立評議会後、カラカチャノフ副首相兼国防大臣は記者団に対し、シメオノフ副首相の辞任は政府の倒壊を意味するとし、シメオノフ副首相に辞任は要求しないとの姿勢を示した。

◆在外ブルガリア市民庁長官の逮捕

▶29日、特別検察のゲシェフ副検事総長は、ソフィア市、キュステンディル市及びプレーベン市における関連捜査の結果、贈賄・文書偽造・職権乱用の罪で、在外ブルガリア市民庁のペータル・ハラランピエフ同庁長官及び同庁官房長を含む15名の同庁職員を逮捕した旨等を発表した（その後逮捕者は20名に増加）。

▶検察によれば、本件捜査は、ブルガリアの身分証明書が5000ユーロと引き換えに発行されているとの通報に基づき開始され、ハラランピエフ長官らは、EU圏に無査証で渡航できるブルガリアの身分証明書を希望する外国人に対し、必要な書類提出・手続き等を経ずにこれを発行し、1か月に40万ユーロの利益を上げていたとされる。

▶本件騒動を受け、BSPは（ハラランピエフ長

官を任命した統一愛国者出身であり人口問題を担当する）シメオノフ副首相が辞任しない限り、BSPは国民議会のいかなる審議にも参加しないとの党の立場を表明。その結果、10月31日の国民議会審議は定足数確保が難航し、開始が約1時間遅延する事態となった。

社会

◆ルセ市の女性ジャーナリスト殺害事案

▶6日、ドナウ河沿いで、ルセ市の地方テレビ局TVNの司会者ヴィクトリア・マリノヴァ氏（30歳）の遺体が発見された。マリノヴァ氏が司会を務める番組で最後に扱ったテーマは、公共入札に関する不正及びEU資金の不正疑惑であった。

▶本件殺人事件に関しては、国境なき記者団（RSF）、ジャーナリスト保護委員会（CPJ）、グテーレス国連事務総長、欧州委員会報道官等を始めとする多くの国際的アクターが同事案を非難するステートメントの発出や発言を行い、事件解明へ向けたブルガリア政府の迅速な対応を求めた。

▶10日、ボリスフ首相、シメオノフ副首相、ツァツァロフ検事総長及びマリノフ内務大臣は、それぞれ記者団及び外交団に対するブリーフィングを行い、9日、ドイツにおいて同事件の容疑者を逮捕した旨を発表した。ボリスフ首相は、犯人の特定は、被害者の体に残された犯人のDNA、及び容疑者の衣服に残された被害者のDNA等の確固たる証拠を基に行われたとし、今回の事件は衝動的なものであると述べた。また、ボリスフ首相は、今回の事件に際しては、事実に基づかない報道や誹謗中傷によって捜査当局は相当の圧力の下での捜査を強いられたと述べ、捜査が偽の情報や憶測に基づく欧米各国及びメディアからの誹謗中傷に晒されたことは遺憾とし、集まった外交団に対し、事実に基づく中立的な情報を本国に伝達するよう要請した。

外交

1. 対EU関係

◆ボリスフ首相の欧州理事会出席

▶17-18日、ボリスフ首相はブリュッセルで開催された欧州理事会に出席した後、報道陣に対し移民・難民問題について難民の二次的移動に関する話し合いは、EU域外国境に関する問題を解決するまで開始できないと述べた。同首相は欧州理事会において、政治意志の保持、国境管理に対する人的・技術的投資、第三国との合意及びEU域外国境管理への資金拠出の4点を重要事項として指摘した。

▶ボリスフ首相は、最近欧州に流入している移民・難民はギリシャを通過しているとし、ブルガリアはこれに良く対応していると述べた。また同首相は、これまでに3千人近くのアフガニスタン国籍保持者を不法入国のため送還したと明かした。

▶ボリスフ首相は、オーストリアEU議長国が推進しているにもかかわらず、ダブリン規則改正に関する話し合いは全く進んでいないと述べた。

2. 対露関係

◆ボリスフ首相とメドベージェフ露首相との会談

▶18-19日にブリュッセルで開催されたASEM首脳会合のマージンにおいて、ボリスフ首相はメドベージェフ露首相と会談した。

▶会談の主要議題はエネルギー分野における二国間協力の進展であった。ボリスフ首相は、バルカン・ガスハブの可能性に関して意見を交換したとし、多方向へのガス輸送の可能性があるとした。

▶両首相は、ブルガリアにおけるロシア人観光客の増加を指摘した。ボリスフ首相は、10月にモスクワにおいて経済・科学技術協力政府間委員会が開催されると明かした。

3. 対バルカン諸国関係

◆マケドニアにおける国名問題等憲法改正プロセス開始決定への祝意

▶20日、19日にマケドニア国民議会において、

マケドニア国名変更等に関連した憲法改正プロセスの開始が決定されたことを受け、ラデフ大統領及びザハリエヴァ副首相兼外務大臣は次のような声明を発出した。

▶ラデフ大統領声明：2018年10月19日の国民議会における投票結果は、マケドニア共和国の長い歴史的な道において大変重要な一歩である。本結果は、友好、善隣及び協力の原則にのっとり、両国にさらなる緊密さをもたらすものである。我々の二国間関係の発展的見通し及び過去のイデオロギー的レイヤーの払拭は、マケドニア共和国のEU及びNATOへの統合に対するブルガリア共和国の支持を強固にする。我々2か国の乖離縮小に向けた政治的勇気、リーダーシップ及び国家的責任の発露を歓迎する。

▶ザハリエヴァ大臣声明：マケドニアの欧州及び欧州北大西洋統合プロセスへの扉を開いた本日のスコピエにおける国民議会の決定を歓迎する。本決定は、バルカン地域におけるすべての市民に繁栄をもたらす唯一かつ最も正しい決定であると信じている。NATO及びEUにおける我々の共通の未来に票を投じたすべての国会議員に祝意を表す。我々は、本プロセスにおいて、最も誠実かつ親しい友人であり続ける。

◆ツェラル・スロベニア副首相兼外務大臣のブルガリア訪問

▶25日、ツェラル・スロベニア副首相兼外務大臣はブルガリアを訪問し、ザハリエヴァ副首相兼外務大臣と会談した。また、ラデフ大統領への表敬訪問も行った。

▶ザハリエヴァ大臣は、25日の在ブルガリア・スロベニア大使館の開館に対するツェラル大臣の貢献を賞賛した。同館は、両大臣の出席のもと開館した。

▶両大臣は、西バルカン諸国の欧州統合を支持していくことを確認した。ザハリエヴァ大臣は、両国が西バルカン諸国をよく知る隣国として同地域の欧州及び欧州北大西洋統合を真剣に支持し、ブルガリアEU議長国時のように集中的支援を継続

しなければならないとした。ツェラル大臣はブルガリアEU議長国を賞賛し、西バルカンの欧州統合プロセスを継続すべきとの見解を示した。

▶両大臣は、近年の二国間経済・通商関係の伸長を確認した。ザハリエヴァ大臣は、今後の協力可能分野としてハイテク、自動車、農村産業、製薬及び観光を挙げた。また同大臣は、本年3月のソフィア・リュブリャナ直行便就航以来、双方の観光客は20%増加したと述べた。

4. 二国間関係

◆ボリスフ首相のウクライナ訪問

▶5日、ボリスフ首相はウクライナを訪問し、ポロシェンコ・ウクライナ大統領と会談した。両者はオデッサで会談し、その後ボルグラードのG・Sラコフスキ高校創立160周年記念式典にも出席した。訪問にはヨトヴァ副大統領、シメオノフ副首相（当時）及びヴァルチェフ教育科学大臣が同行した。

▶ポロシェンコ大統領との会談において、ボリスフ首相は、ブルガリア系ウクライナ市民は常に相互理解・協力の架け橋であるとし、ボルグラードにおいて高等学校の創立をともに祝うことは、ブルガリア人社会がウクライナで言語・文化アイデンティティを保持していくことの重要性を両国がともに理解していることを示していると述べた。

▶ポロシェンコ大統領は、ブルガリアEU議長国期間中のEU・ウクライナ関係の文脈におけるブルガリア政府の努力に謝意を表明した。ボリスフ首相は、ウクライナの親欧州路線及び欧州北大西洋的価値観の共有は、あらゆる分野における発展を強化するものであると述べた。

▶ボリスフ首相はラコフスキ高校における式典の挨拶において、オデッサ市長及びポロシェンコ大統領とオデッサにブルガリア人学校を創設し、ソフィアにウクライナ文化センターを開設することで一致したと述べた。

◆ジヒナウイ・チュニジア外務大臣のブルガリア訪問

▶5日、ジヒナウイ・チュニジア外務大臣はブルガリアを公式訪問した。ジヒナウイ大臣はザハリエヴァ副首相兼外務大臣と会談し、ラデフ大統領を表敬訪問した。チュニジアの外務大臣によるブルガリア訪問は23年ぶり。

▶ザハリエヴァ大臣は、チュニジアが全体主義体制から民主主義社会への移行に成功したことを賞賛した。同大臣は、重要な分野における協力を推進するため、2010年以降開催されていない合同経済委員会をできるだけ早期に開催し、ブルガリア・チュニジア経済会議所を創設するとした。

▶ザハリエヴァ大臣は、移民・難民問題に関し、チュニジアはEUの重要なパートナーであり、同問題は安全、教育、権利の平等及び雇用によって解決されるとの見解を示した。

▶ラデフ大統領は、チュニジアは北アフリカ地域の安定に大きく貢献していると評価した。ジヒナウイ大臣は、EU・北アフリカ諸国協力の進展は安全保障への投資であるとした。両者は、近い将来の合同経済委員会及びビジネスフォーラムの開催について意見を交換した。

◆ラデフ大統領の訪英

▶17-19日、ラデフ大統領は訪英し、エリザベス女王陛下への謁見、ジョンストンNATO海上部隊司令部（MARCOM）司令官等との会談を行った。

▶ジョンストンMARCOM司令官との会談後、ラデフ大統領は、MARCOMは地中海における「シー・ガーディアン」オペレーションへのブルガリアの積極的参加、ブルガリア海軍が準備した演習「ブリーズ2018」の実施及びMARCOMへの貢献を高く評価しているとした。

▶18日、エリザベス2世女王陛下への謁見が行われた。ラデフ大統領は、エリザベス2世陛下からの招待は、ブルガリアと英国との友好関係の証であると述べた。謁見は約40分間行われた。ラデフ大統領は、2019年のブルガリア・英国外

交関係樹立140周年に関連し、エリザベス2世陛下または英国王室メンバーのブルガリア訪問を招請した。

◆ボリスフ首相のアラブ首長国連邦訪問

▶20日ー22日、ボリスフ首相はアラブ首長国連邦(UAE)を訪問し、ムハンマド・アブダビ皇太子、サイフ副首相兼内相及びムハンマド副大統領兼首相兼ドバイ首長と会談した。訪問にはザハリエヴァ副首相兼外務大臣及びゴラノフ財務大臣が同行した。

▶ムハンマド・アブダビ皇太子との会談において、ボリスフ首相は、本年の相互の大使館開館及びブルガリアの首相による初のUAE訪問は、二国間関係前進の証拠であるとした。同首相は、経済協力政府間合同委員会の活動を通じて、通商・経済連携及び投資の発展を模索するとし、協力が見込める分野としてハイテク及びイノベーションを挙げた。ムハンマド・アブダビ皇太子は、戦略的関心分野として、経済、農業、建設業、テクノロジー及び軍事産業を挙げた。

▶ボリスフ首相は、2020年のドバイ国際博覧会にブルガリアの参加を希望する旨述べた。ムハンマド・アブダビ皇太子は、ブルガリア訪問を希望する旨表明した。またボリスフ首相は、本年末までにブルガリア・UAE戦略パートナーシップ協定に署名すべく準備中であると明かした。

▶ムハンマド副大統領との会談においてボリスフ首相は、湾岸地域最大のブルガリア人社会はUAEにあり、大半がドバイに居住しているとし、二国間関係におけるドバイの特別な役割を強調した。

▶ボリスフ首相はムハンマド副大統領に対し、両国はIT、農村産業、インフラ、観光及び安全保障において協力できると確信していると述べ、同副大統領に対しブルガリア訪問を招請した。

◆ボリスフ首相のエジプト訪問

▶22ー23日、ボリスフ首相はエジプトを訪問し、エルシーシ・エジプト大統領と会談した。訪問にはザハリエヴァ副首相兼外務大臣、ゴラノフ

財務大臣、アタナソフ国家情報局長官及びゲオルギエフ国家安全保障局長官が同行した。

▶ボリスフ首相及びエルシーシ大統領は、経済、教育、科学技術、保健、観光、軍事産業、安全保障、テロ対策、不法移民等多岐にわたるテーマについて協議するためのブルガリア・エジプト合同委員会を開催することで一致した。本合同委員会には両国の全閣僚が出席するとし、2019年1月に第1回会合を開催、その後2019年末に2回目を開催した後、年1回ペースで開催することである。

◆メメディアロフ・アゼルバイジャン外務大臣のブルガリア訪問

▶31日、メメディアロフ・アゼルバイジャン外務大臣はブルガリアを訪問し、ザハリエヴァ副首相兼外務大臣と会談した。また、ラデフ大統領への表敬訪問も行った。

▶ザハリエヴァ大臣は、2020年にギリシャ・ブルガリア天然ガス相互接続管が完成すると、アゼルバイジャンのガスを輸入できるようになると述べた。メメディアロフ大臣は、2020年初めにアゼルバイジャンのガスをブルガリアに届けることができるよう望むとした。

▶両大臣は、アゼルバイジャンのSOCAR社によるブルガリアの各世帯へのガス供給に関する投資について話し合った。SOCAR社は現在、フィージブル・スタディを進めている。

▶両大臣出席のもと、第1回ブルガリア・アゼルバイジャン戦略対話が実施され、経済、エネルギー、交通・運輸等の分野で協議が行われた。2017年の二国間貿易は前年比で48%伸長している。ザハリエヴァ大臣は、両国にとってEU・アゼルバイジャン戦略パートナーシップ協定は重要であり、次期欧州議会選挙前の締結を望むとした。

5. その他

◆ボリスフ首相のASEM首脳会合出席

▶18ー19日、ボリスフ首相はブリュッセルにおいて開催されたASEM首脳会合に出席し、演

説を行った。

▶ボリスフ首相は、ブルガリアEU議長国（2018年前半）の優先事項の1つは連結性であり、最大の到達点は西バルカンの欧州統合の見通しを焦点に戻したことであった。

▶ボリスフ首相は、欧州・アジア間連結に関するEUの包括的新戦略は、アジアのパートナーとの相互理解の礎となると指摘した。また同首相は、近年のブルガリアはASEMの枠組における取組を強化し、本年前半、ブルガリアにおいて2回のASEM閣僚級会合を開催したと述べた。

軍事

◆ブルガリア空軍の新規戦闘機選定プロセス

▶1日、国防省は検討中の新規戦闘機購入について

経済

1. マクロ経済

◆2018年経済成長予測の下方修正

▶6日、財務省は秋の経済予測において、2018年の経済成長予測を3.6%に下方修正した。2018年前半の経済成長についても、本年春には3.9%成長と予測していたが、実際は3.4%に留まっている。本年も引き続き国内消費が進んでいるが、輸出の伸び悩みが理由の1つとなっている。

▶2019年の経済成長は、公的投資及び公的消費の拡大により3.7%と予測されており、特に個人消費による成長の押し上げが想定されている。2018年はトルコ経済の悪化によりブルガリアの輸出が伸び悩んだが、2019年は輸出が盛り返すと見られている。

▶また2018年の失業率は、これまでの過去最低であった2008年のレベルを更に割り込んで5.4%を予測している。

◆2019年の国家予算案

▶22日、財務省は、2019年の国家予算案及び改訂された2019～2021年の中期予算予測を発表した。

て、最終的に4つのオファーが得られたと発表した。

▶4つのオファーの詳細は、新造機が米国のF16、同じく米国のF18及びスウェーデンのグリッペンであり、中古機がイタリアのユーロファイターとなっている。

▶国防省によれば、2つの委員会においてこれらのオファー内容を審議することである。第一の委員会はストイコフ少将が委員長を務め、質問状による詳細の確認等を行った上でスコアをつけ、提案等をまとめる。第二の委員会は政治及び軍事の専門家により構成され、第一の委員会が提出したスコア等を検討し、具体的交渉を行う。

▶これによれば、国家予算は2019年にはGDPの0.5%の赤字となるが、2020年及び2021年にはバランスを維持すると予測されている。

▶公的収入は、2019年の対GDP比37.7%から2021年には35.8%に減少すると見込まれているが、名目上は2019年の438億5700万レヴァから2021年には475億2300万レヴァに増加することが見込まれている。

▶公的支出は、2019年の対GDP比38.2%から2021年には35.8%に減少するが、名目上は2019年の444億5000万レヴァから2021年の478億2100万レヴァに増加するとの見通し。

▶また、国防費を2024年までに対GDP比2%に増加する計画、最低月給510レヴァを2019年1月1日から560レヴァに、さらにその後610レヴァに引き上げる計画、及び公共部門の給与を2019年に10%引き上げる計画も明らかとなった。

▶28日、閣僚評議会は、2019年予算案及び予算関連法案を採択した。この関連で、ボリスフ首相は、この予算案は、選挙時に与党が掲

げた2021年末までにGDPを1100億レヴァにする等の公約に合致しており、GDPは2019年に1160億レヴァ、2021年には1330億レヴァに増える中期予算計画となっている旨指摘した。

◆2017年の国家債務額

▶国立統計研究所の最終データによれば、2017年のブルガリアの政府債務は、GDPの25.6%に当たる259億800万レヴァであった。

◆政府が国立銀行法の改正案を提出

▶24日、政府は、ブルガリア国立銀行法の改正法案を提出した。

▶同改正法案は、ユーロ圏の「待合室」と呼ばれるERM2への加入に関連し、欧州中央銀行と欧州委員会から指摘された、ブルガリア国立銀行のEU基準への不一致を是正することを目的とし、同行の制度的・機能的独立、経営幹部の人事の独立などが盛り込まれている。

◆副大統領が人口政策等への早期着手を訴え

▶26日、ヨトヴァ副大統領は、ブルガリアの人口問題に関する会議で、国の急速な人口減少を指摘し、人口政策及び関連措置に直ちに組み込む必要を訴えた。

▶副大統領は、出生率に比し死亡率が極めて高いこと、このままでは10年後には800~1000の過疎村が消滅することになると指摘した。また、同会議に参加した社会学者は、かつて約900万人いた人口は、現在では公式には約700万人とされているが実際には約600万人程度であり、直ちに然るべき対策をとらなければ、2050年~60年頃には450~500万人にまで人口は減少すると予測している。

◆9月の総生産者物価指数は微増

▶国家統計局の発表によれば、2018年9月

の総生産者物価指数(TPPI)は、前月比で0.3%上昇した。

2. 経済政策、産業

(1) エネルギー関連

◆地域暖房及び温水価格の値上げ

▶1日、イヴァノフ・エネルギー水規制委員長が、2018年第4四半期の暖房及び温水価格を2.28%から8.57%の幅で値上げすることを発表した。値上げの理由は、同日から天然ガス価格が13.89%値上げされたことである。例えば、ソフィアでは暖房価格は7.97%、プロブディフでは8.57%値上げされることになる。

◆マリツァ・イースト第二発電所のための新たな課金を検討

▶3日付国内報道によれば、エネルギー省が環境に優しいエネルギー源のため、「重要インフラ課金」とする新たな課金を検討していることが分かった。これは国営のマリツァ・イースト第二火力発電所の経営状況を改善させるためのものであり、9月末までに同省の作業部会が提案を準備することになっていたが、もしこれが現実化すれば、排出権を購入するための資金として1MWhあたり10レヴァの電気料金値上げとなる可能性がある。排出権の購入なくして発電所を運営することは不可能であり、これが同発電所の経営状況が悪化している理由である。

▶本件新たな課金はエネルギー水規制委員会と欧州委員会の承認が必要であるが、マリツァ・イースト第二火力発電所は、欧州内でも有数の大気汚染を引き起こす石炭火力発電所であることもあって、特に欧州委員会が課金を承認するかの見通しは不透明である。

▶また12日付報道によれば、ペトコヴァ・エネルギー大臣が同発電所を運用するためには来年1年間で4億6600万レヴァを排出権購入のために支払う必要があると言及している。

◆エネルギー大臣と米国大使が会談

▶31日、ペトコヴァ・エネルギー大臣は、ルービン駐ブルガリア米国大使との会談の中で、ギリシャのアレクサンドロポリス近郊にLNGターミナルを建設するプロジェクトに資本参入する可能性を検討していると述べた。同大臣によれば、ブルガリアは同プロジェクトへの関与について、2018年末までに結論を出したい意向。

▶報道によれば、アレクサンドロポリスLNGターミナル建設計画については、9月から建設企業の入札手続が開始されており、2019年第2四半期の建設開始、2020年末までの運用開始が期待されている。ブルガリアは、同LNGターミナルは、ギリシア・ブルガリア・ガスインターコネクターやトランスアドリア・ガスパイプラインと相乗効果を有する計画として、米国、カタール、キプロスやカスピ海沿岸国のガスを潜在的な供給源とする同LNGターミナルは、自国のガス供給源の多角化につながるとして関心を示している。また、米国も、欧州ガス市場における自国のガスのシェア獲得という観点から、同LNGターミナル建設に長年関心を有しているという。

▶さらに、米国製の2つの火力発電所（AES Galabovo, Contour Global）との優遇価格による電力販売に関する長期契約について、ブルガリア側が再交渉を求めている問題に関し、ペトコヴァ大臣は、「建設的な対話により、双方に受け入れ可能な解決策が見つかるであろう」と述べた。

（3）運輸・交通

◆ソフィア空港のコンセッション入札

▶4日付け報道によれば、英国最大の空港運営会社であるマンチェスター・エアポート・グループ（MAG）がソフィア空港のコンセッション入札に関心を有している旨同社のプレスリリースにより明らかとなった。同空港のコンセッションは本年7月5日に入札が開始され、落札

者は空港運営サービスの提供とともに新ターミナルの建設も請け負うことになっている。

▶MAGは半官半民の会社であり、現在は英国でマンチェスター、ロンドン（スタンステッド）及び東ミッドランド空港の運営を行っている。MAGは現在中国の北京建工集団（BCEG）と協力してマンチェスターで空港周辺の建設事業を行っているが、ソフィア空港の入札においても同社と協力する予定である。

▶BCEG関係者によれば、本件は中国による16+1イニシアティブの一環で行うものであり、今後のインフラ分野における更なる協力を検討しているとのことである。

◆プロブディフ空港のコンセッション手続停止

▶5日付け報道によれば、ゼリヤスコフ運輸・IT通信大臣は、プロブディフ空港のコンセッション手続を停止することを提案する見込みである。これはEU指令（2014年）に基づいて導入されたコンセッション権を与える新たな手続に従うためである。

▶なお、プロブディフ空港の35年のコンセッション権を落札した中国のHNAグループとプロブディフ空港会社の合併企業はコンセッションに関する手続を行わないことを正式に通達している。

◆中国中社がブルガリア国鉄の車両入札に関心

▶9日付国内報道によれば、現在ブルガリア国鉄（BDZ）が42両の電車車両の購入及びメンテナンスの入札を実施していることに対し、中国中車（CRRC）が関心を示していると報じられている。BDZは8月に6億7500万の入札を開始しているが、2023年に42両を購入後は、2028年にも43両の車両が必要となっている。

▶CRRCは10月5日に本件入札への関心を示しているが、同社はBDZに対して3億ユー

口の投資を行うことを言及しており、BDZはこれにより負債の借り換えを行うことになる。現時点で中国の車両がEU内で運用できる免許が下りるかは不透明であるが、アレクシエフ(暫定)運輸・IT通信大臣はEU基準に合致しているとの自信を示している。

▶その後、13日付け報道では、BDZが本件入札を一時停止したことが伝えられている。ブルガリア競争委員会がCRRCの本件関心に関連して調査を開始している模様であり、併せてドイツやチェコの関係者も入札に対して不満を伝えているとのことである。

(3) その他

◆アジバDEM病院が撤退を検討

▶4日付報道によれば、トルコ系のアジバDEM病院グループがブルガリアからの撤退を検討しているとのことであり、ブルガリア国内のアジバDEM・シティクリニック(トクダ病院)その他医療センターを売却する見込みである。アジバDEM病院グループはマレーシアのIHH投資ファンドが一部所有しているが、昨今のトルコリラの下落により同ファンドの株式が急速に下落しているとのことである。

◆緊急医療の現代化プロジェクトを開始

▶23日、アヴラモヴァ地域発展公共事業大臣、アナニエフ保健大臣及びニコロヴァ発展途上地域オペレーション・プログラム長の隣席の下、緊急医療の現代化プロジェクトの開始に関する契約が署名された。

▶同プロジェクトは、地域保健インフラのためのEUの助成金を原資とし、総額1億6350万レヴァとなり、36か月間にわたり全国で展開される。

▶同プロジェクトには、現代的な医療設備を備えた救急車400台の購入、20の地域医療センターの刷新が含まれる。

◆ビジネス界が労働法典の改正を要求

▶24日、ブルガリア産業協会(BIA)と16の産業協会が会合し、労働法典改正法案作成のためのタスクフォースを立ち上げることを決定した。

▶ビジネス界は、現行法は社会主義時代のもので、現在の労働市況に合致していないとし、より柔軟性のある雇用形態(時間制雇用、非正規雇用、副業など)を認めるべく労働法典を改正すべきだと考えている。

◆第4回中国CEEC(16+1)地方リーダー会議の開催

▶20日、ソフィアで第4回「16+1」地方リーダー会議が開催された。

▶21日、カラニコロフ経済大臣は、「16+1」イニシアティブ・フォーラムにおいて、過去10年間でブルガリア・中国間の貿易は10倍になり、2018年前半の貿易額は3億6670万米ドルとなった、経済省の優先事項は戦略的パートナーとして中国との協力を強化することであると述べた。同大臣は、農産物・食糧、エッセンシャル・オイル、化粧品、ワイン、ミネルウォーターなど、伝統的なブルガリア製品の輸出を強化することによりさらに貿易を拡大できる、自動車産業、自動車部品、エレクトロニクス、電気工学、ITなどの分野で、中国からの投資に良好な条件を提供することができると述べた。

▶22日、ラデフ大統領とCao Jianming全国人民代表大会常務委員会副委員長が会談し、EU法の検討及び中国側にとっての投資リスクを評価するグローバル協力センターのソフィアへの設立について議論した。

◆日本製品の偽物をヴァルナ税関が押収

▶25日、ヴァルナ税関は、世界中のプロ料理人に愛用されている日本のブランド包丁「GLOBAL YOSHIKIN」の名前を使用し

た偽造品3204セットを押収した。押収物の価格は数百万ユーロに相当するという。

- ▶偽造品は、中国広東省深セン市塩田港からブルガリアの企業に宛てて出荷されていた。
- ▶このブランドを有する日本の吉田金属工業は、これらの偽造品が同社の承認・許可なく製造されたものであることを確認している。

◆汚職嫌疑で実業家を逮捕・告訴

- ▶26日、特別検察局は、石油化学製品を生産するポリメリAD社への捜索を開始。同日、ゲシェフ副検事総長は、同社のオーナーであるヴァネフ氏及びその妻をフランスのニースで拘束したと発表。両名の逮捕は、2010～11年の間の巨額な会社資金の不正使用及び巨額の脱税の嫌疑によるとのことである。
- ▶また、同日、ソフィア市検察局は、アルファ・ファイナンス・ホールディング社のプロコピエフ氏理事長及び理事2名を、マネー・ロンダリングの嫌疑で告訴したと発表した。

◆2017年に外注産業が成長

- ▶ブルガリア外注産業協会のスラヴォフ会長によれば、2017年、国内の外注産業は18.

2%成長し、GDPの4.8%に相当する21億ユーロを売り上げた。同会長によれば、昨年、ブルガリアでは477社が外注産業で活動し、6万7000人を雇用しており、2018年には雇用者数は7万人に達する見込みという。社員の多くは30歳以下で、平均月収は1500～2000レヴァであるが、中には4000レヴァを超える月収を得ている社員もいるという。

- ▶ブルガリアの外注産業における電話サービスの割合はわずか16%であり、大多数の84%は知的生産物の提供やデータベース管理関連製品といった高度な付加価値を生産する職種である。

◆2019年ビジネス環境ランキング

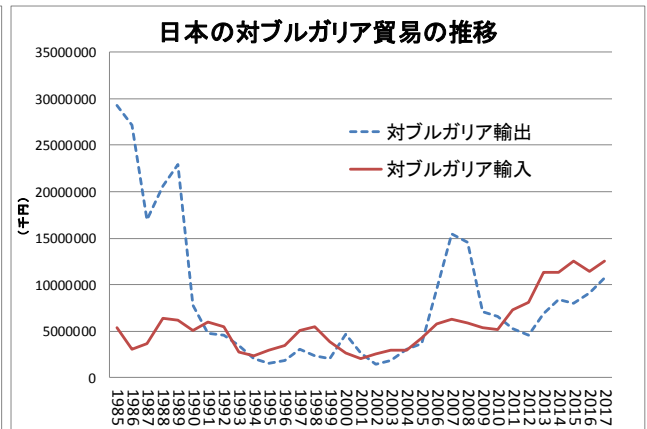
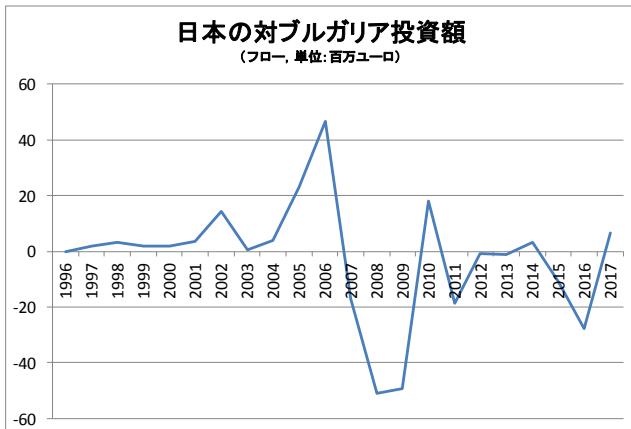
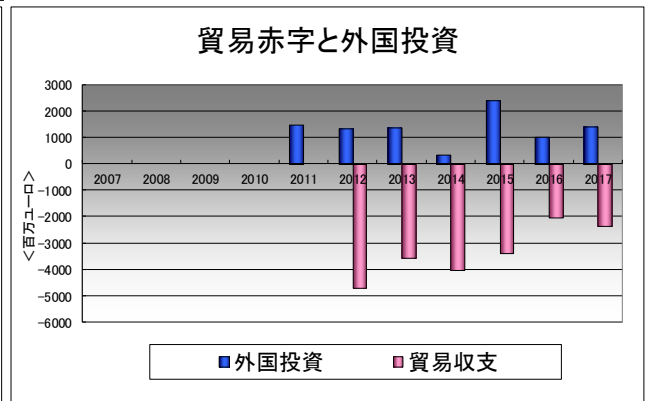
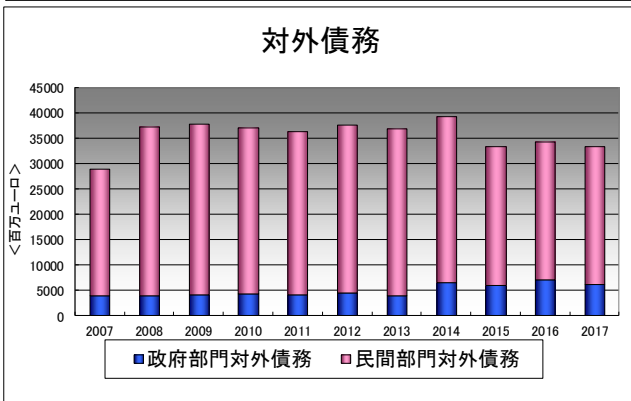
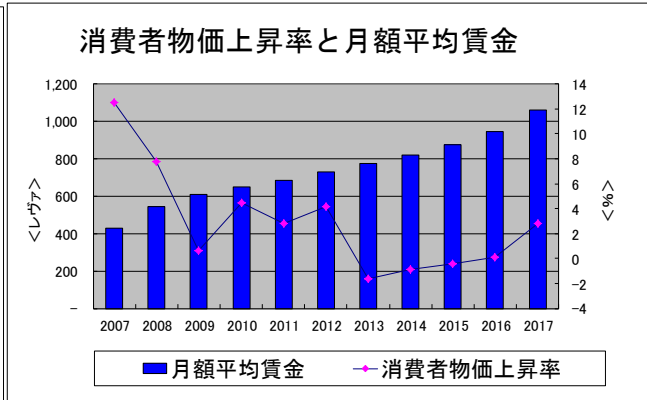
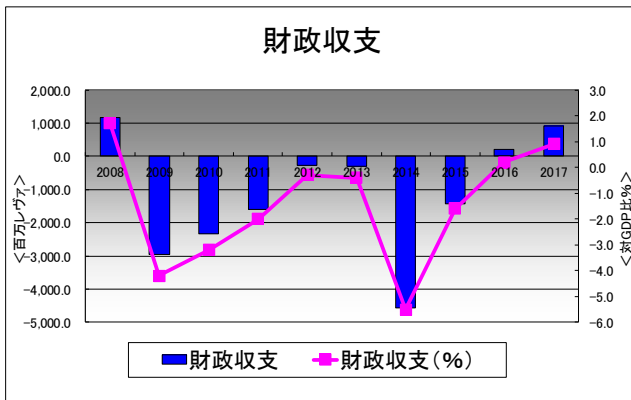
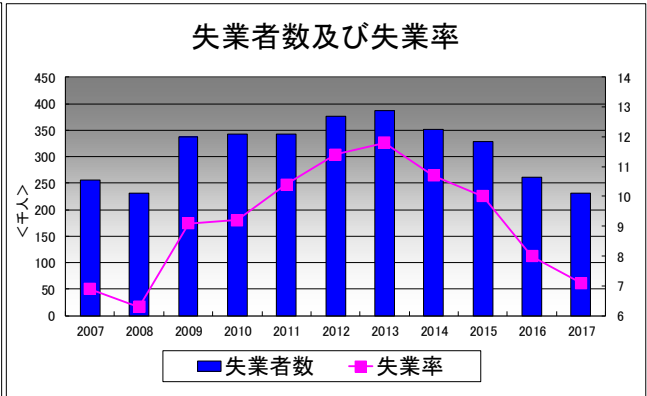
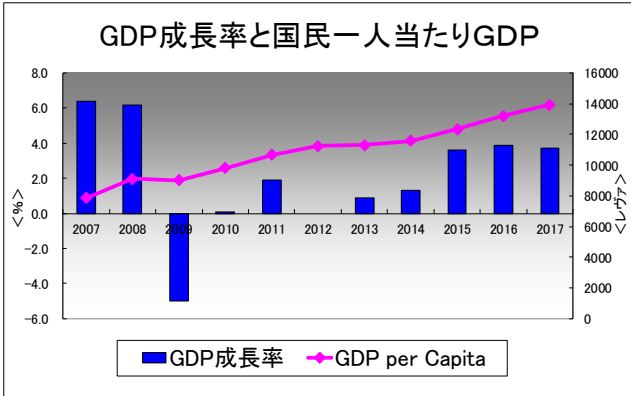
- ▶世界銀行が発表した2019年の「Doing Business」ランキングによれば、ブルガリアは、昨年から9位後退して、190か国・地域中で第59位となった。
- ▶「税の支払い」は時間がかかると評価され第92位、「会社の設立・登録手続」は第99位、さらに「電力ネットワークへの接続の容易さ」では第142位となった。他方、「建設許可の取得」は改善され、第37位となった。

ブルガリア内政・外交の動き（10月）

在ブルガリア大使館

1（月）	
2（火）	
3（水）	
4（木）	
5（金）	☆ボリスフ首相のウクライナ訪問 ★ジヒナウイ・チュニジア外務大臣のブルガリア訪問
6（土）	
7（日）	
8（月）	☆カラヤンチェヴァ国民議会議長のモンテネグロ訪問 ☆アンゲルコヴァ観光大臣のサウジアラビア訪問（－10日）
9（火）	
10（水）	
11（木）	
12（金）	
13（土）	
14（日）	
15（月）	
16（火）	
17（水）	☆ボリスフ首相の欧州理事会出席（－18日，於：ブリュッセル） ☆ラデフ大統領の訪英（－19日）
18（木）	☆ボリスフ首相のASEM首脳会合出席（－19日，於：ブリュッセル）
19（金）	☆ボリスフ首相とメドベージェフ露首相との会談（於：ブリュッセル）
20（土）	☆ボリスフ首相のUAE訪問（－22日） ★第4回中国CEEC（16+1）地方リーダー会議の開催（於：ソフィア）
21（日）	
22（月）	☆ボリスフ首相のエジプト訪問（－23日）
23（火）	
24（水）	☆第16回ブルガリア・ロシア経済・科学技術協力政府間委員会の開催（於：モスクワ）
25（木）	★ツェラル・スロベニア副首相兼外務大臣のブルガリア訪問
26（金）	
27（土）	
28（日）	
29（月）	☆ボリスフ首相の第3回EU・アラブ世界サミット出席（於：アテネ）
30（火）	
31（水）	★メメディアロフ・アゼルバイジャン外務大臣のブルガリア訪問

ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局，中央銀行，財務省（日本）貿易統計)



ブルガリア主要経済指標 (出典: 中央銀行)

< GDP成長率と国民一人当たりGDP >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1	Q2		
GDP成長率 (%)	1.9	0.0	0.9	1.3	3.6	3.9	3.6	3.5	3.2		
GDP per Capita (BGN)	10,673	11,229	11,310	11,577	12,339	13,206	13,939				

< 財政収支 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Q1	Q2		
財政収支 (million BGN)	-1,589.7	-262.5	-296.3	-4,538.1	-1,486.5	170.7	1,144.6	964.6	1523.2		
財政収支GDP比 (% of GDP)	-2.0	-0.3	-0.4	-5.4	-1.7	0.2	1.1	0.9	1.5		

< 失業者数及び失業率 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct
失業者数 (千人)	342	376	386	351	329	261	232	237	231	222	211	200	189	186	184	184	193
失業率 (%)	10.4	11.4	11.8	10.7	10.0	8.0	7.1	7.2	7.0	6.8	6.4	6.1	5.7	5.7	5.6	5.6	5.9

< 消費者物価上昇率と月額平均賃金 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct
消費者物価上昇率 (%) (前期比)	2.8	4.2	-1.6	-0.9	-0.4	0.1	2.8	0.3	0.3	-0.3	0.4	0.3	0.1	0.7	0.1	0.3	0.7
月額平均賃金 (BGN)	686	731	775	822	878	948	1,060	1075	1049	1107	1145	1110	1119	1120	1095	1135	

< 対外債務 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2017 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct
政府部門対外債務 (million EURO)	4,205.0	4,578.9	4,062.2	6,552.0	5,986.9	7,228.8	6,327.7	6,271.8	6,243.5	6,224.2	6,236.3	6,213.4	6,183.3	6,190.0	6,167.5		
民間部門対外債務 (million EURO)	32,089.8	33,134.6	32,873.4	32,786.4	27,506.6	26,992.6	27,069.6	27,143.6	27,158.2	27,080.8	27,010.3	26,999.2	27,292.5	27,503.6	27638		

< 対内直接投資と貿易収支 >

	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct
対内直接投資 (million EURO)	1,476.3	1,320.9	1,383.7	347.4	2,399.1	1,003.3	1,389.6	253.5	228.2	-3.2	2.3	73.8	276.7	486.9	706.5	826.4	
貿易収支 (FOB-CIF) (million EURO)		-4,688.9	-3,556.6	-4,020.7	-3,374.3	-2,055.3	-2,369.8	-444.3	-371.3	-346.2	-411.2	-441.6	-445.4	-380.3	-179.7	-231.4	
輸出 (FOB) (million EURO)		20,770.2	22,271.5	22,104.9	22,982.3	24,126.0	27,915.8	2,142.4	1,964.8	2,273.5	2,134.3	2,201.6	2,367.9	2,492.2	2,362.0	2,408.2	
輸入 (CIF) (million EURO)		25,459.1	25,828.1	26,125.7	26,356.6	26,181.3	30,285.6	2,586.7	2,336.1	2,619.7	2,545.5	2,643.1	2,813.3	2,872.5	2,541.7	2,639.6	